

創立 1980年10月8日



ROTARY CLUB OF SAKAI NORTH

第2640地区 堺北ロータリークラブ週報

事務所 〒590-0940 堺市堺区車之町西2丁1番30号 ポピア南海3階302号

Tel (072) 223-2300 番 Fax (072) 223-5005 番

URL : <http://www.sakai-kita.jp/>

E-mail : snrc@jasmine.ocn.ne.jp

例会日 毎週金曜日 午後0時30分

例会場 南海グリル 天兆閣別館 4階「ローズ」 Tel:(072)222-0131 番(代表)

ガバナー(第2640地区) : 福井 隆一郎

ガバナー事務所 URL : <http://rid2640g.com/fukui/>

E-mail : fukui2016@wind.ocn.ne.jp

会長: 中田 学 幹事: 笹山悦夫 広報委員長: 坂田兼則 編集者: 嶽盛和三

四つのテスト 言行はこれに照らしてから 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

本日の例会

2016年11月25日(金)第1732回

卓話 「堺市の防災対策について」

卓話者 堺市危機管理室長 岡本康成様

紹介者 國井 豊会員

今週の歌「日も風も星も」

「待ちぼうけ」

お客様の紹介

出席報告・会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

次週の例会

2016年12月2日(金)第1733回

年次総会

卓話「テーブル会議」

前回の例会

2016年11月18日(金)第1731回

卓話 「緊急援助消防隊について」

卓話者 堺市堺消防署 第一警防課長

消防司令長 神山 孝氏

紹介者 米澤邦明会員

今週の歌「日も風も星も」

「堺北 RC の歌」

お客様の紹介 堺消防署長 新開 実様

堺消防署 古川信昭様

出席報告・会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

○皆出席表彰(11月度)

池田茂雄会員(第34回)

<11月18日(金)の出席報告>

会員数	31名
出席会員	21名
欠席会員	10名
ゲスト	3名
ビジター	0名
10月13日(金)の出席率	90.32%



人類に
奉仕する
ロータリー

2016-17年度 国際ロータリーのテーマ

「人類に奉仕するロータリー」

国際ロータリー会長 ジョンF.ジャーム(米国・チャタヌーガRC)

卓話の時間

「消防について（緊急消防援助隊派遣）」

堺消防署 第1警防課長 神山 孝 様

緊急消防援助隊とは

緊急消防援助隊は阪神淡路大震災での教訓から、平成7年、全国の消防機関による応援を速やかにするために創設されましたもので、現在では全国の消防隊5301隊が登録されています。

堺市消防局の派遣実績

平成16年・兵庫県豊岡市の水害

平成17年・兵庫県尼崎市の列車事故

平成23年・東日本大震災（岩手県大槌町・釜石市・大船渡市）

平成28年・熊本地震（南阿蘇村）

豊岡市への派遣

台風による大雨のため「円山川」の堤防が決壊して、河川に隣接する市街地が広範囲に浸水して、多数の人が自宅に取り残されておられました。

水深は、深いところで私の胸ぐらいまであり、マンホールの蓋が外れていないか？や、用水路のようなものがないのか？などの不安が常時つきまとり、探り棒のようなもので足元の確認をしながら恐る恐る歩くといった非常に怖い思いをしました。

尼崎市への派遣

堺市消防局からは、救助中隊長と救助隊が派遣されました。派遣から帰ってきた救助隊員の話によりますと「飛行機事故のようであった」とのことでした。

岩手県への派遣

堺市消防局からは3月11日～4月1日の22日間に828隊2979名が派遣されました。私は3月16日に大阪を出発して約30時間後の17日に大槌町に到着しました。

この派遣に際しての私の任務は「救助中隊長」でありました。

3月18日に安渡町での活動中にガレキに埋もれている乗用車の中の2名を救出してほしいと自衛隊からの要請で現場に赴きました。乗用車の中を観察しますと、親子と思われる2名を発見して救助活動を開始しました。

子供さんは運転席後ろの後部座席に設置されたチャイルドシートに座ったままの状態であり、父親と思われる大人は運転席に座っていました。この方は、体を大きく捻って後部座席の子どもさんに向かって両手を伸ばしたままの姿勢でありました。

この二人の様子を目の当たりにしまして、自分に子どもがいるが、あの大津波の中で親としてこのような行動が果たして自分とはとれるのか？と深く考えてしまいました。

熊本への派遣

堺市消防局からは4月16日～23日の8日間に20隊76名が派遣されました。私は第次派遣隊の大阪府指揮隊長として4月19日に南港からフェリーに乗船して別府まで移動して、そこから陸路で20日に南阿蘇村に到着しました。

1次・2次派遣隊は河陽・立野・新所地区において人命探索活動や、避難所に避難されて

いない方の安否確認作業を実施していました。1次・2次隊と交代した3次隊は高野台地区の大規模土砂崩れ沈没した家屋に1名が取り残されているとの情報え、救助活動を担当することとなりました。

救助隊は1次・2次・3次派遣隊共通え、24時間体制で避難所に常駐して、体調不良を訴える方の救急搬送や、救急搬送を必要としない軽微な負傷者の応急手当を実施して、避難所の方から「救急車が常駐してくれて大変心強かった」とのお言葉をいただきました。市民の安心安全を守る消防として一つ形をお見せすることができたと考えています。

私は高野台地区で自衛隊・警察との現場調整会議と、部隊指揮の任務で15時過ぎに宿営地を出発、現場までの道中は道路の陥没などのために車両が思うように進入できず目的地のかなり手前で駐車し、そこから徒歩で30分かけて現場に到着し、救助隊17隊・80名の隊員と共に18時頃から活動を開始しました。日が暮れたころから雨が降り出し、粘土質の土壌は滑りやすく交代で休憩を取っている活動隊員の疲労はかなりのものになりました。

3時10分に活動地域に暴風警報および大雨洪水雷注意報が発令され、共に活動していた自衛隊と協議の末、4時10分に隊員の安全確保のため活動一時中断、全隊撤収を行い宿営地である熊本県野外劇場アスペクタに戻りました。

宿営地に全隊が到着したのは21日の朝6時を過ぎていました。実に15時間余りに及ぶ救助活動となりました。

21日は悪天候のため救助活動ができず資機材の整備を行い、天候が回復した22日昼前から再び高野台地区に入り、19時過ぎに福岡県大隊と交代するまで救助活動を実施しました。

23日に大阪府大隊は全隊撤収して朝5時に宿営地を出発、陸路で大阪へと向かい64隊全隊が無事帰還したのが24時の少し前のことでした。

以上、私が派遣された緊急消防援助隊の活動の概要です。

熊本県では被災者の方と直接接触することはありませんでしたが、豊岡の水害による派遣ではすでに避難されている方や、我々が救助した方からの住人情報の正確さに驚きました。「〇〇さんは△人家族で避難している様子はない」という情報をもとに〇〇さん宅に伺うと、避難のタイミングを逸して自宅の2階に避難されていたりといった事例が数多くあり、地域の繋がりの強さを非常に感じました。

岩手県では大津波により破壊的な被害を受けた街並みは住宅地図が役に立たないほどでありました。そんな中、やはり有効な情報は地元住民の方からもたらされることが大半で、発災後92時間後に救出することができた方も避難所に避難されている方からの情報によるものでした。

この2つの例から今日、皆さまにお伝えしたいことは近い将来、発生が危惧されている東南海・南海地震のような大規模災害のときにこそ地域の繋がりが大きなチカラになるということです。阪神淡路大震災発生直後に約35,000名が倒壊するなどした建物等の下敷きとなりましたが、消防・警察・自衛隊に救出された方8000名に対して、全体の7割以上にのぼる27000名以上の方が近隣住民により救出されたという事実があります。これは大規模災害時の「公助の限界」が明らかになると共に、自助・共助による「地域のチカラ」が重要だということを顕著にあらわしたものだと言えます。

自分の身は自分で守るといった「自助」、共に助け合うといった「共助」この2つを具現化して大規模災害に立ち向かうのが「地域のチカラ」だと私は考えています。

この機会にぜひ地域の繋がりの強化にご尽力を賜り「地域のチカラ」を向上させていただきますようお願いを申し上げます。

会長の時間



今日の名言 宮本 輝さんという作家の「命の器」のワンフレーズです。
運の悪い人は、運の悪い人と繋がり合っていく。
偏屈な人は、偏屈な人と親しみ、心根の清らかな人は、心根の清らかな人と出会い、そして繋がり合っていく。
「類は友を呼ぶ」ということわざが含んでいるものより、もっと興味深い法則が人と人との出会いを作り出していると思えない。
仏教的な言葉を使えば宿命とか宿業であったりする。
それは実業家にも言える。
伸びていく人は、たとえどんなに仲がよくても、知らず知らずのうちに落ちていく人とは疎遠になり、いつの間にか自分と同じ伸びていく人と交わっていく。たくらんでそうなるのではなく、知らぬ間にそのようになってしまうのである。抵抗しても、抵抗しても、自分と言う人間の核をなすものを共有している人間としか結びついていかない。
私は最近やっと人間世界に存在する数ある法則の一つに気づいた。出会いとは、決して偶然ではないのだ。でなければ、どうして出会いが一人の人間の転機となり得よう。どんな人と出会うかは、その人の命の器しだいなのだ。

委員会報告

広報委員会

「ロータリーの友 11月号のご紹介」

広報委員 嶽盛和三



- ORI 会長メッセージ：アーチ C.クランプの革新 P.3
1917 年、アトランタで開かれた第 8 回年次大会において、当時の会長アーチ・クランプによって提案された基金が、現在のロータリー財団です。
その提案がいかに革新的であったか、ロータリー財団 100 年の歴史から明らかです。
「ロータリー財団 100 周年の祝賀で最も大事なものは、3 億ドルの寄付目標を達成することです」と RI 会長は述べています。
- 特集 難民にシェルターを P.7
国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の活動を、ロータリー財団国際親善奨学生 UNHCR 職員の阿阪奈美さんという方が、撮影した写真で紹介しています。現在阿阪さんは、2 年前山ノ内会長年度に国際奉仕プロジェクトで訪問したタイのカンチャナブリの現地事務所の保護官をされています。
- End Polio Now P.12 から 19
先々週、ロータリー財団フォーラムで山中委員奉が述べられた事が詳しく記事として紹介されています。一読を。
・日本のポリオについて：発症から撲滅へ そして今後の課題
・活動報告：ポリオの会に参加してなど
・ロックの殿堂入りを果たした伝説的シンガーのドノヴァン氏がロータリーのポリオ撲滅大使に
- ロータリー財団 100 周年を祝う
アメリカからの VTT (職業研修チーム) 来訪 P.20
2660 地区、千里 RC の記事です。大澤徳平 PG 堺能楽会館を訪問との事。

○よねやまだより

モンゴルからの米山奨学生との交流体験談 P. 24

2660 地区、大阪東 RC 「出会いが感動の始まり」 マレーシアに米山学友会が創設

○心は共に：熊本地震、東日本大震災関連記事 P. 26

「太鼓の音色を届ける」豊中南 RC 「心のケアが大切」東大阪中央 RC どちらも 2660 地区の記事です。

○SPEECH：小泉八雲記念館館長 小泉 凡さん講演 要旨 P. 65 (縦組 4)

講演者の曾祖父にあたる小泉八雲から考えるとして「オープンマインドを現在に活かす」という内容です。現在社会に通じるものがあるので、一読をお勧めします。

○卓話の泉

「日本 DMAT の活動」南和歌山医療センター院長 中井國雄先生 P. 49 (縦組 20)

・ロータリー俳壇 歌壇 柳壇

堺フェニックス RC 米田様、和歌山田辺 RC 山路様、堺清陵 RC 物種様 掲載

ロータリー財団委員会

「寄付のお願い」

ロータリー財団委員長 山中喜八郎



本格的な冬がやって来ているようで、かなり寒い日が続きます。どうぞ風邪等お召しになりませんように、気を付けて下さい。

さて、先週のロータリー友の表紙が、ポリオ接種の写真でした。初めて見る方が多いと思います。これを2回続けなければ、効果はありません。又12頁から17頁までは「日本のポリオ」と題して、撲滅の過程を描いて頂いております。1988年当時、ポリオ発生源125か国、35万人推定された患者が、なんご2015年には2か国74人の患者まで減っています。2000年には我が国ではポリオ根絶宣言を出しています。そして我々は今までに、120万人のロータリアンが13億ドルと申しますと1300億円以上をご寄附頂き、お蔭様で125か国25億人以上の子どもに、予防接種のボランティア活動を通じて支援を行い、晴らしい貢献をしています。是非人類の最大の脅威であるこの感染症を撲滅させたいものと思っています。皆さま方には、又奉仕活動の一環として、ポリオ撲滅にご協力をお願い致します。

また、財団活動には毎年行って頂いております、秋と春の2回の内、秋の分のご寄附を集金させていただきます。皆様のお陰で、財団の中でも、かなり上位の扱いを受け、特に今年は「財団100周年」の年にあたり、皆様方には、ご無理申し上げますが、宜しくお願ひいたします。

集金させて頂きたい日：12月2日（金）

予備日：12月9日（金）

金額：財団1万円+ポリオ1万円＝2万円

くれぐれも宜しくお願ひ致したく、伏して御願ひ申し上げます。

社会奉仕委員会

薬物乱用「ダメ・ゼッタイ」報告

社会奉仕委員長 藤永 誉



この度、3年間に渡り毎月の例会で募金活動をしてきました“ダメ・ゼッタイ募金”を使用し、バンドエイド12,500個を大阪府に寄贈させて頂きました事をご報告いたします。

今後とも薬物乱用防止啓発活動にご協力くださいます様、宜しくお願い申し上げます。



その他

「2017年度堺9クラブ 新春合同例会・新春互礼会のご案内」

幹事 笹山悦夫

晩秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

さて、新春合同例会・新春互礼会は下記の通り開催されます。ご出席下さいます様お願い申し上げます。

記

日時：平成29年1月12日（木）

場所：ホテル・アゴーラリージェンシー堺

受付：午前10時15分～

第一部 新春合同例会 10時45分～ 第二部 新春互礼会 12時00分～

※2017年1月13日（金）の例会は、1月12日（木）新春合同例会に例会変更致します。

S A A 報告

池田茂雄会員 皆出席表彰頂き有難う御座います。これからも頑張ります。

澤井久和会員 新開ちゃん、びっくり！有難う。

米澤邦明会員 新開署長はじめ神山様、古川様、本日の卓話宜しくお願いします。皆さんも堺市の緊急援助隊の事を知って頂きたく卓話にお招きしました。

塩見 守会員 第6回子ども囲碁フェスタ・堺 大成功でした。皆さまのご協力に感謝いたします。来年もよろしくお祈りします。

奥野圭作会員 神山さん、本日は有難うございます。

嶽盛和三会員 子ども囲碁フェスタ・堺盛会でした。良かったです。国際奉仕委員長様、大変ですが、一緒に頑張りましょう。

合計 19,000円

幹事報告

- (1) 配布物 週報 卓話資料 ロータリーの友11月号
- (2) 幹事報告 特にございせん。

ロータリーの「世界ポリオデー」イベント ポリオ撲滅のメッセージを全世界に発信

「世界ポリオデー」にあたる10月24日、アトランタにある米国疾病対策センター（CDC）本部でロータリーとCDC主催による特別イベントが開かれ、世界の保健専門家と著名人が出席しました。『タイム』誌の総合監修者、ジェフリー・クルーガー氏が司会を務め、200人以上が出席したこのイベントは、ライブ動画で全世界に配信されました。

ポリオ撲滅活動の進展を報告

今年8月、ポリオ症例ゼロを2年間維持したかと思われたナイジェリアで新たなポリオ発症が確認され、ロータリーをはじめポリオ撲滅に取り組んできた諸団体にとっては大きな打撃となりました。これらの症例は、最近までボコハラムの支配下にあったナイジェリア北部のボルノ州から報告されたものです。世界保健機関（WHO）は、この地域に5年間、ウイルスが存在していたと見ていますが、世界的にはポリオ症例数は確実に減っています。

クルーガー氏との対談Q&Aで、CDC所長のトム・フリーデン氏がポリオ撲滅の進展について語りました。「現在、ポリオ症例数も、発症者が出ている地域の数も、歴史上最も少なくなっている」とフリーデン氏。全世界の症例数は、今年わずか27件。昨年同時期での数は51件でした。

ナイジェリアでの新たな症例を受け、ロータリーとパートナー団体は、ナイジェリア政府、チャド、カメルーン、中央アフリカ共和国と協力してさらに活動を強化。経口ワクチンと不活化ワクチンの両方を使って約100万人の子どもへの予防接種キャンペーンを緊急に実施しました。

「新たな症例が確認されたのは、サーベイランス（監視活動）が継続して行われていることの証拠」とフリードマン氏は話します。「さらに症例が確認されたとしても、それは驚くことではありません。監視が行き届いていれば、それだけポリオ症例の発見につながるからです」

アフガニスタンとパキスタンでは撲滅活動が引き続き成果を挙げています。アフガニスタンでは、2016年現時点までの症例数を昨年と比べると13件から8件に減少、パキスタンでも38件から15件に減少しています。

フリーデン氏は、過去に予防接種が行き届いていなかった子どもたちにワクチンを投与するパキスタンでの画期的な取り組みにも触れました。これには、国境や州境、大都市への境界付近でのワクチン投与所の設置や、ワクチン投与者チームに携帯電話を提供してデータを迅速に保健センターに送信するロータリーの活動も含まれています。「ウイルスを囲って封じ込めていかなければならない」とフリーデン氏は加えます。

著名人も応援

パラリンピック選手であるポリオサバイバー、デニス・オグベさんもイベントに出席し、自身の生い立ちについて語りました。3歳のとき、ナイジェリアの自宅近くにあったクリニックでマラリアの治療を受けていたとき、ポリオに感染しました。2000年のシドニーと2012年のロンドンのパラリンピックに出場したオグベさんですが、自身が体験する最も難しいチャレンジは「世界からポリオをなくすこと」だと話しました。

トーク番組「What's Trending」の司会者、シーラ・ラザーさんもイベントに参加し、世界中の人びとが投稿したソーシャルメディアの内容を紹介。さらに、世界中で3,000以上の「世界ポリオデー」イベントが行われていることも伝えました。パキスタンのコート・ディジの遺跡では、大きな「End Polio Now」のメッセージがイルミネーションで投影されました。

作家・ジャーナリストであるマリン・マッケナさんと、同じくジャーナリスト・作家のジェナ・ブッシュ・ヘイガーさん（ブッシュ元大統領の次女）もビデオ出演しました。

さらに今回、ロータリーがユニセフの支援を受けて制作したバーチャルリアリティー映像が初公開されました。インドとケニアの街中にあるような感覚が得られるこの映像は、ポリオサバイバーの体験をリアルに伝えています。ユニセフのポリオ撲滅担当ディレクター、レザ・ホサイニさんはこう話します。「これは、ポリオによって人生が大きく変わった人びと様子を伝える優れた技術です。...ポリオ撲滅活動がどこでどのような人びとを救っているのかを、実際に見てもらうことが大切なのです」

この日、フリーデン氏と国際ロータリーのジョン F. ジャーム会長は、ポリオ撲滅活動への多額の寄付を発表。さらに、カナダ政府が1000万ドルの寄付を約束し、元ニューヨーク市長で事業家・慈善家であるマイケル・ブルームバーグ氏も2500万ドルを寄付しました。

ロータリーは、1979年にポリオ予防接種活動を開始して以来、ポリオ撲滅に16億ドル以上を寄付しています。イベントの最後に、ジャーム会長はこう語りました。「私たちはこの取り組みを30年以上前に始めました。以来ずっと、あきらめずに全力を注いできました。そして今、この活動を成し遂げる日が近づいています」

Rotary News 24-Oct-2016